

第15年度 オンラインと集合の併用開催

実践！ 信頼性・品質技術 研究会

経験豊富な講師・委員の指導
多様な業種の参加者メンバーとの議論や意見交換から…

問題解決の糸口を探り
スキルと人脈を得る！！

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

「実践!信頼性・品質技術研究会」参加のおすすめ

グローバル競争に勝ち抜く答えがここにある!

実践!信頼性・品質技術研究会に多くの企業の方に参加していただき、多種多様な品質信頼性情報の交換および議論の場としてご満足いただけるよう活動を進めて参りました。

近年では、科学技術の進歩や製造・生産拠点の海外(特に新興国)へのシフト、マーケットのグローバル化に伴う顧客ニーズの多様化・使用環境や使われ方の変化、地球環境への配慮など、取り上げれば数限りなく企業活動を取り巻く環境は時々刻々と変化しています。

品質・信頼性分野でも、機械・電気などの技術区分そのものが陳腐化する一方で、問題のシームレス化が進み、単一分野から複数分野へ横串で解決を進めるケースも少なくありません。また海外への生産委託や仕入れ先管理など品質管理のグローバル化が進み、統合MS・ソフト品質・ネットワークシステム・教育・コンプライアンス・安全性の観点でも品質保証の必要性が高まっています。

グローバル競争を勝ち抜くためには、品質・信頼性問題の解決が不可欠であり、材料・部品レベルまで遡った原因究明と対策、システム・マネジメントレベルでの問題解決や業務プロセスを考慮した再発防止を図ることが重要になり、企業の品質・信頼性業務に携わる技術者には、より広く、より深い知識が求められるようになってきています。

本研究会は、様々な業種や企業の現場で活躍している技術者が集まり、品質や信頼性に関する最新の事例や課題をベースに議論を行う場です。研究分科会で、グローバルに「ものづくり」を進める先端企業の経験と知識を持った運営委員と共に、各企業の状況に合わせた最適なソリューション「勝ち抜く答え」を一緒に導き出していきましょう。

タイトルに「実践!」とある通り、一般論ではなく実際に皆さんが抱えている課題を取り上げるのが本研究会の最大の特徴です。受け身で情報を収集するのではなく、Give & Takeの精神で積極的に議論に参加して、自からスキルを向上させたいと思っている方のご参加を強くおすすめいたします。



実践!信頼性・品質技術研究会
運営小委員会 委員長

原島 瑞靖

富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
デバイステクノロジー事業本部
品質管理部 品質評価技術統括グループ
マネージャ

参加者の声

(ご所属は執筆当時：2021年3月)

気付きを得るための貴重な場となっています。

進藤 丈明 様

TOTO株式会社
環境建材事業部
環境建材品質保証部
環境建材品質推進グループ
グループリーダー



RQ研究会には2017年度から参加をしております。上司の代理で参加したことがきっかけです。初めて参加したとき、ボルトの緩みというテーマで様々な視点で意見交換をし、自らの知識の浅はかに気付かされたことを覚えております。

技術者であれば誰しも一度は解決困難な課題に直面したり、一応は課題解決したもののこの解決策で良かったのであろうか…という経験があると思います。その時このような課題は自社だけなのであろうか、他社ではどのように対応したのであろうかと思ったことはないでしょうか。課題は上位概念化すれば、共通なことも多く、他社から解決のヒントが得られることもあります。

RQ研究会は品質と信頼性に携わる技術者が約50社から集まっている研究会です。「実践」と名前がついているように、講演会のように受け身で聞くのではなく、自らが課題を持ち寄って議論や意見交換を行う場です。そのため、実際に自分が抱えている課題を参加者で議論することで解決につながっていく、また、参加者が抱えている課題の議論に加わることで自らの成長の糸口につながっていくことができます。

品質や信頼性の課題を抱えている皆様、是非一緒に議論や意見交換をしましょう。

参加者の声

(ご所属は執筆当時：2021年3月)

社内の常識は非常識かも!?
他社事例からの気付きで改善を推進!

味岡 桃太郎 様

ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
厚木テック
品質環境部門



私は本研究会の第4研究分科会に参加しており、QMS、リスクマネジメント、人材育成、再発防止手法、ナレッジ活用など、様々なテーマについて、各社メンバーと議論しながら情報を得る事が出来ています。

本研究会では、他社の様々な問題解決の事例を聞く事が出来ます。内容はかなり具体的で「目からウロコ」のヒントを得て社内環境に合わせてアレンジをしながら、実際に課題解決に貢献した事例も複数あります。

社内では過去からの経緯で常識だと思っていた考え方も実は他社と比べてみると、違う視点での色々な考え方や手法があると気付かされます。これは一つの会社の中では得る事が出来ない有益な知見だと思います。また、参加者は品証関係の組織の方も多く、「あるある」の話で盛り上がる事もあります。

会社は違っても、良い品質を作り込みたいという熱意は皆さん同じでどこの会社も同じ様な悩みに向かって様々なやり方で戦っている、という仲間意識を感じる事もあり、モチベーションアップにも繋がっています。

社内では様々な課題解決が必要ですが、自社の知見だけでなく他社の事例をヒントにする事で、早く、質の良いアウトプットを出す事が可能になります。品質改善に悩んでいる皆さん、あなたが普段仕事をしている狭い世界から飛び出して視野を広げる事をオススメします!

参加されるみなさんが主役です!

参加者のみなさんから信頼性に関する諸問題を提起していただき、それを他の参加メンバーおよび研究会をサポートする信頼性専門技術者(運営委員)と議論する中で、問題解決の糸口を見出していきます。

各研究分科会は、“Give and Take”の精神に基づいて、相互に問題提起、事例発表を行い、議論します。研究会の性格上、秘密事項は除き、活発な議論を行っています。安心して議論を行うため、参加メンバー・運営委員は、本研究会内での議論の内容・知り得た情報等に関し、「守秘誓約」を交します。ここでしか聴けない真摯な“ホンネトーク”や“自身が抱える問題や課題の相談”ができるのは“本研究会ならではの”と言えます。

活動内容

本研究会はメンバーおよび運営委員により構成されています。

活動年度は毎年5月に始まり翌年3月に終了します。

本研究会のメンバーは、下記の研究会(例会)に参加して、研究活動を行います。

年間活動スケジュール

参加者同士のネットワークづくりのため、オンラインと集合形式(日科技連・東高円寺ビル)の併用で開催します。また、実施内容は、都合により内容が変更となる場合があります。

	開催形式	開催日	活動内容				
			10:00～12:00		13:00～16:00		
第1回	集合 (オンライン可)	2025年	5月30日(金)	10:30～12:00 オリエンテーション	12:00～16:00(12:30～13:30昼食) 研究分科会	16:15～17:30 全体懇親会	
第2回	オンライン		6月27日(金)	全体研究会 特別講演会		研究分科会	
第3回	オンライン		7月25日(金)	研究分科会		研究分科会	
第4回	集合 (オンライン可)		9月5日(金)	10:30～12:30 テーマ別分科会(ワークショップ)		13:30～17:00 研究分科会	
第5回	集合		11月7日(金)	見学会(企業・団体への見学)午前もしくは午後予定			
第6回	オンライン		2026年	1月30日(金)	全体研究会 特別講演会		研究分科会
第7回	集合 (オンライン可)			3月6日(金)	10:30～12:30 研究分科会		研究分科会(13:30～16:15) 全体懇親会(16:15～17:30)

※集合開催の開始時刻は10:30、見学会開催見合わせの場合は、研究分科会またはテーマ別分科会を実施します。

— オンラインで「積極性」や「参加意欲」は保てる？

コロナ禍により、この5年で培ったオンライン研究会のノウハウをさらに進化させてまいります。双方向のオンラインツールを使用し、カメラをonにすることで参加メンバー、運営委員ともに表情が確認できますので、程よい緊張感と集中力が保たれ集合開催と変わらない活発な討議が可能です。また、集中力を保てるよう、こまめに休憩を挟み進行します。



1 移動時間や交通費がかからない!

交通費・宿泊費など、開催地の問題で参加・派遣をあきらめていた方も参加できます



2 参加率アップ!

インターネットの環境とパソコンがあれば、場所を選ばず参加できるので、会社からでもリモートワークでも出席できます

1 全体研究会

メンバーと運営委員が一堂に会する「全体研究会」では、特別講演、質疑応答を通じてメンバー相互の啓発、交流を図ります。全体研究会は「特別講演」を中心に年2回開催します。

年	特別講演テーマ、講演者
第14年度 (2024年)	自動車部品の信頼性技術の変革 ～EV時代を見据えて～ 澤田 昌志 氏(㈱アイシン TQM・ISO推進部 主査)
	ヒューマンエラーの観点から品質不祥事を考える ～人は正しい(合理的、損失が少ない)と判断して行動する～ 河野龍太郎 氏(㈱安全推進研究所 代表取締役所長)
第13年度 (2023年)	再発防止の質向上のための視点と進め方 小杉 敬彦 氏(SQCテクノサポート 代表)
	機械・構造系製品の信頼性について 田村 優 氏(元日産自動車㈱、元河西工業㈱常務役員)

2 研究分科会

※都合により内容が変更になる場合がございます。

研究分科会は、本研究会活動の中心であり、参加メンバーが主役で開催月の7回全ての実施します。分科会の構成は、「メカ」や「エレキ」といった技術領域のボーダーレス化に伴い、「材料」や「マネジメント」「システム」など、信頼性技術の原理・原則的な色合いの濃い構成にしています。

- 〔第1研究分科会〕 材料・部品解析分科会
- 〔第2研究分科会〕 部品・デバイス(電子部品)分科会
- 〔第3研究分科会〕 機器・システム分科会
- 〔第4研究分科会〕 品質保証分科会



「研究分科会」では、参加メンバーのみなさんが抱える様々な信頼性に関する諸問題について、事実やデータを交えて運営委員とともに議論します。問題を正確に把握し、具体的な改善策や解決方法を考えていくといった実践的な信頼性の展開を図るのが大目的です。

したがって第1～第4の分類は、あくまで主として議論したいテーマであり、関連して改善したい内容に発展したり、一見脇道にそれたように思える議論を自由闊達に交わすことも、本分科会においては重要なことと考えています。

また、第4研究分科会は品質保証担当者、責任者が集い、QA・QCに関する情報交換を活発に行っています。

3 テーマ別分科会(講演・ワークショップ)

「テーマ別分科会」は、「研究分科会」とは別の視点から選定した信頼性・品質保証テーマについてのワークショップです。自由な発想で運営委員・メンバーから提案していただいた興味あるテーマの中から、3～5のテーマを設定し、希望の「テーマ別分科会」に参加します。また、メンバーからの要望があれば、2つの研究分科会による「合同分科会」を開催することも可能です。「テーマ別研究会」「合同分科会」ともに、通常の研究分科会と同じくメンバー参加型で、事例やデータを持ち寄って議論をします。自分の属している「研究分科会」以外の研究分科会メンバーや運営委員と、異なる側面から信頼性の諸問題を議論し、解決方法を考えていくことができ、見聞を大いに広めることができます。

●2024年度実施した「テーマ別分科会テーマ」

高分子材料の劣化モードと信頼性評価・解析、積層セラミックコンデンサの評価・故障解析、市場の使われ方、AIの活用について(生成AIと機械学習を含む)

4 見学会(企業・団体への見学会)

※企画検討中

「百聞は一見にしかず」という言葉通り、座学だけでは幅広い知識は得られません。

時には外に出て、信頼性や品質に関連する最新の技術や設備、他社の取り組み等に実際に触れることも有効です。「見学会」では、主に都内周辺に拠点を置く企業や公的機関の研究所、機体整備工場や分析/評価装置メーカーなどを訪問し、見学とディスカッションを行うことで、知見を高めます。日常の仕事の中では得られない経験をする絶好の機会となること、請け合いです。

研究分科会・活動紹介

(敬称略、順不同 委員所属はP.8参照)

第1研究分科会 材料・部品解析分科会

主査 小原田 一真 副主査 平本 抽 委員 大西 久男、澤田 真一 特別顧問 木村 忠正

本分科会では、材料・部品の解析技術を切り口に、メンバーが持ち込む信頼性や品質の諸問題の本質は何か、最適な分析・評価手法とその原理は如何なるものか、得られた結果からどう考察し課題解決へ繋げるか、幅広い業界・分野の技術者が集い、みなで討議を行っています。

例えば、不具合事例を前に、みなさんはどんなストーリー（仮説）を描き、どんな検証（分析）を選択して、その結果をどのように考察し、相手に伝えようとしていますか。先例を学び、様々な分野の、また、異なる視点での議論に触れることで、より多くの解析の道しるべを得ることができます。

初回に、参加メンバー各自が抱える課題や疑問、要望などをお伺いし、以降の討議テーマを設定します。2回目以降では、各回テーマに関連した事例を持ち寄って頂き、全員で共有し議論します。また、今まさに直面している喫緊の業務課題など突発的な事例も、その都度取り上げます。これまでのテーマ例を以下に示します。

①故障／劣化のモードやメカニズム

金属材料の腐食・剥離・マイグレーション、樹脂材料の割れ・変色・アウトガス、部品への加熱・吸収・振動、異物・コンタミネーション等

②分析技術／計測技術

各種顕微鏡(SEM, X線CT, OM)による形態観察、各種分光法(EDX, FT-IR, XPS)による表面分析、熱分析(DSC, TG-DTA, TMA)による物性値取得等

③信頼性評価方法

加速試験／寿命予測・スクリーニング、シミュレーション・AI活用、特殊雰囲気・環境／規制対応等

④解析マネジメント

基礎概念～新規探索、標準化・ルール化、データベース・ノウハウ構築、技術伝承・人材育成、課題・異文化対応力等

資料1枚でも文章1行でも自ら積極的に発信する姿勢と、メンバーの発表に対して耳を傾け応答する意欲により、相互に価値ある人の繋がりを得ることができます。原理原則に従って状況を正しく理解し、適切な評価検証を行い、得られたデータの意味することを的確に論ずることができる、製品の品質保証や信頼性の作り込みに役立つ"解析"力を一緒に培っていきましょう。ぜひみなさんのご参加お待ちしております。

第2研究分科会 部品・デバイス(電子部品)分科会

主査 三井 直人 副主査 柏木 謙一 委員 瀬戸屋 孝、馬場 正太郎、横川 慎二 顧問 山口 浩二

本分科会は、エレクトロニクス製品に使用される部品に焦点を当てた研究分科会です。

デバイス・電子機器・ユニットの各メーカー、企業それぞれの立場から、本音で議論できるクロウズドでユニークな分科会です。

運営委員は、国内デバイスメーカー、電気電子機器メーカーの品質・信頼性について豊富な経験を持った方々が担当し、参加されるメンバーは、設計・技術・生産・購買・品質保証・品質管理を実践している技術者の方々で構成されています。

取り扱うテーマは、「部品・デバイスの品質・信頼性技術全般」です。

①定例テーマ討論

初回に討論したいテーマを発言いただき、回ごとの主テーマを定めます。2回目以降は、そのテーマに従って、自社での取組みや事例などを参加メンバー持ち回りで発表し合う形式で討論を進めさせていただきます。内容によって、本分科会で十分に討論がしきれない場合は、テーマ別分科会や他分科会との合同討論の実施などで、柔軟に対応させていただきます、幅広い討論を行います。

②緊急テーマ討論

直面している電子機器や電子部品で起こっている品質・信頼性の具体的な問題を持ち寄り、幅広い知見に基づいた多面的な議論を行うことで、報告書に明記されることのない真の原因や、その解釈、波及性などを検討します。

事前に課題や困りごとを分科会のメーリングリストで発信いただければ、参加メンバーが参考情報を持ち寄り、活発な議論が行われます。

③討論テーマのご紹介

昨年度、様々な議論を行いました、そのキーワードの一例をご紹介します。

- 各種部品固有の品質・信頼性の諸問題
- 部品調達・サプライヤー監査の手法
- 外部リソースの活用方法(ファンダリー・他社との連携)
- 信頼性試験・加速試験の手法
- 信頼性試験の規格(業界標準)
- 電子部品の構造と壊れ方
- 技術伝承、教育・育成

研究会は、参加いただくメンバーみなさんが主役です。積極的な議論により、研究会を通じて相互理解を深め、多様な知見から問題解決力を身につけていきましょう。

第3研究分科会 機器・システム分科会

主査 勝田 信 副主査 長野 史裕 委員 岩下 健児、原島 瑞靖

本分科会は、システム製品をお客様に提供するために日々奮闘する機器システムメーカーのエンジニアが集い、日常の疑問点や新たな視点を見つけ出す技術的活動になります。

取り扱っている製品はある種の集合体であり、この集合体であることが物事を難解にしています。例えば、品質・信頼性の高い部品・材料を使えば品質・信頼性が確保されるとは限りません。一方で、品質・信頼性が並な部品・材料からでも、高信頼性を有したシステムは構築可能です。つまり、保全が定期的実施されるシステムにおいては、先端半導体部品よりも、旧式リレーを使う方が高アベイラビリティを実現できる分野もありますし、部品の信頼性の総和を超える信頼性を達成する巨大システムであっても、重大事故を起こさないように信頼性を作りこむことが、信頼性技術者の腕の見せ所と言えるでしょう。

ここでポイントとなるのが、「対象となるシステムをどのように捉えるか」ですが、本分科会では、各種電子機器・メカトロニクス製品・住宅機器・鉄道などのエンジニアが、業界をまたがり横断的に論議します。また、それらの議論を通して、多岐にわたる分野やそれぞれの業界の知見に触れることは、参加されるメンバーの気づきとなり、メンバーの課題解決の一助となること間違いありません。

論議内容としては、参加メンバーの関心があるテーマを題材に、モノづくりにおけるみなさんが日常的に抱える課題に対して、対象製品にとどまらず製品を取り巻く上位システム（社会インフラまで）との関係性を視野に入れたものを幅広く扱います（下記昨年度テーマ）。メンバーそれぞれが興味深いテーマの担当となり、当日テーマに沿って話題を紹介いただくことで、そこから議論の輪が広がっていきます。不具合事例の原因解析からChatGPTなどの新しい技術への取り組みまで幅広く議論できる場になっています。

- 第1回 みなさんからの希望議題を抽出します
- 第2回 評価試験とレビューのポイント・認証試験
- 第3回 ソフトウェアの品質保証・信頼性の教育、浸透
- 第4回 信頼性試験の校正について、リコールする際の効率的なコスト
- 第5回 樹脂材難燃性の耐久劣化検討
- 第6回 ODMの成功法・システムの品質・信頼性
- 第7回 業務効率改善ツール(AI/DX)の情報収集

この中でもDX(デジタルトランスフォーメーション)に関しては、信頼性からの切り口として継続して取り上げたい課題です。

斬新な活動しておりますので、自社で日頃から悩んでいることを、参加企業のメンバーと論議していくことでヒントを見つけていただきたく思います。ぜひ、みなさんのご参加をお待ちしております。

第4研究分科会 品質保証分科会

主査 木村 功 副主査 山森 英一 委員 向井 剛、山下 恭幸

本分科会では、品質保証・QMSの考え方や組織機能に関するテーマ、品質管理・信頼性技術の手法等の管理技術的テーマを討議する分科会です。

研究会メンバーには、コーポレートや事業の品質保証部門に所属されている方が多く参加されています。コーポレートの立場や事業部の立場から品質保証や品質管理に関する課題を題材に、課題に対する各社の取り組み事例を紹介いただき情報共有し、改善の方向性を討議しています。

主な討議テーマは以下のとおりです。

①品質保証体制／QMS

品質保証は製品開発から日常管理までの各段階で各部門が行う活動です。如何に品質保証活動のPDCAを回しスパイラルアップを図るかをテーマに議論します。

品質保証体制(品質保証部門の組織体制・全社統制構造)、再発防止・未然防止(製品保証計画・PPAP)、市場品質情報処理(体制・システム)、QMS外部・内部監査(リモート監査・監査員教育・海外工場の監査)

②変更点・変化点による品質問題の再発防止・未然防止

変更点・変化点からの市場問題を出さない為に品質管理ツールの上手な活用方法をテーマに議論します。

再発防止手法(なぜなぜ分析・FTA・過去トラDB等)、未然防止手法(設計・工程FMEA・DRBFM・SSM等)、統計的品質管理(SQC)、信頼性技術手法(ワイブル解析等)、リスク分析手法

様々な製品が海外で生産され、かつ、自社生産以外の部品や材料を調達して、品質管理や品質保証を行っている中で、現場で起きている問題や課題をどう解決するか、を議論します。

③品質技術者の育成と品質管理教育

技術伝承や人材不足というような視点からの品質人材育成や品質管理教育、新規事業や新規領域での品質保証の進め方等の議論をします。

本研究会のような異業種の品質保証部門の方達が集まる場は多くありません。

「品質保証とは何ぞや」を考え、明日の品質保証のありたい姿を一緒に議論しましょう。

みなさまのご参加をお待ちしております。

参加会社一覧 (本研究会の前身「RDT研究会」の参加会社含む)

160社を超える企業のみなさんに参加いただいています!

愛三工業(株)	三洋電機(株)	日本パナトロン(株)
(株)アイシン	ZACROS(株)	日本フィリップス(株)
アイシン・エイ・ダブリュ(株)	GEヘルスケア・ジャパン(株)	日本プレジジョン・サーキット(株)
アイシン精機(株)	(株)JVCケンウッド	日本モトローラ(株)
愛知時計電機(株)	新コスモス電機(株)	(社)日本冷凍空調工業会
(株)アイテス	新電元工業(株)	(株)ノーリツ
アイホン(株)	新日鐵住金ステンレス(株)	(株)ハイオス
アイワ(株)	新日本無線(株)	パナソニック(株)
旭化成(株)	スタンレー電気(株)	パナソニックコミュニケーションズ(株)
旭化成エレクトロニクス(株)	住友大阪セメント(株)	パナソニック電工(株)
旭化成マイクロシステム(株)	住友電気工業(株)	パナソニック電工施設照明(株)
アジレント・テクノロジー(株)	住友ベークライト(株)	ハリソン東芝ライティング(株)
アズビル(株)	セイコーインスツル(株)	(株)日立小平ケミコン
(株)アマダミヤチ	セイコーエプソン(株)	(株)日立製作所
アンリツ(株)	積水化学工業(株)	(株)日立製作所 情報・通信システム社
アンリツネットワークス(株)	ソニー(株)	福島アピオニクス(株)
(株)イシダ	ソニーイーエムシーエス(株)	富士ゼロックス(株)
宇宙開発事業団	ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ(株)	富士ゼロックスエンジニアリング(株)
エイブリック(株)	ソニーグループ(株)	富士通(株)
AGC(株)	ソニーグループ・アルファファクトリー & オペレーションズ(株)	(株)富士通研究所
エスアイアイ・セミコンダクタ(株)	ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)	富士電機(株)
エスペック(株)	ダイキン工業(株)	富士電機アドバンステクノロジー(株)
NTTエレクトロニクス(株)	ダイキン電子部品(株)	富士電機システムズ(株)
(株)荏原製作所	ダイニチ工業(株)	藤森工業(株)
(株)LSI Logic Japan Semiconductor	太陽誘電(株)	プライムアースEVエナジー(株)
大阪ガス(株)	タカラスタンダード(株)	ブラザー工業(株)
大崎電気工業(株)	(株)ダスキン	古河電気工業(株)
OLED青森(株)	館山デバイス(株)	古野電気(株)
沖エンジニアリング(株)	(株)タムラ製作所	(株)本田技術研究所
沖電気工業(株)	(株)ディスコ	松下電器産業(株)
オムロン(株)	TDK(株)	松下電工(株)
オムロンアミューズメント(株)	テクダイヤ(株)	松下冷機(株)
オムロンセミコンダクターズ(株)	デンカ(株)	マレリ(株)
オムロンヘルスケア(株)	(株)デンソー	三菱ガス化学(株)
オリエンタルモーター(株)	(株)デンソーウェーブ	三菱重工業(株)
オリンパス(株)	(株)東海理化	三菱電機(株)
オリンパスメディカルシステムズ(株)	東光(株)	(株)村田製作所
鹿島建設(株)	(株)東芝	(株)モリツク
(株)金沢村田製作所	東芝デバイス&ストレージ(株)	森山工業(株)
(株)カネカ	TOTO(株)	矢崎計器(株)
上田日本無線	東北日本電気(株)	矢崎部品(株)
(株)カヤバ工業	東洋通信機(株)	(株)安川電機
(株)カルソニックカンセイ	(株)トキメック	(株)山武
(株)関西電力	トステム(株)	ヤマハ(株)
(株)キーサイト・テクノロジー・インターナショナル(同)	トヨタ自動車(株)	ヤマハ発動機(株)
菊水化学工業(株)	(株)豊田自動織機	ヤマハマリン(株)
キヤノン(株)	ナイルス部品(株)	ヤマハモーターエレクトロニクス(株)
九州松下電器(株)	ナブテスコ(株)	ヤンマー(株)
京セラSLCテクノロジー(株)	日産自動車(株)	(株)ヨコオ
(株)共和電業	日産車体(株)	横河電機(株)
グローブライト(株)	日新電機(株)	Lattice Semiconductor
グローリー(株)	(株)ニテック	(株)リコー
(株)ケアコム	日本アイ・ピー・エム(株)	(株)ルネサス小平ケミコン
コクヨ(株)	日本アピオニクス(株)	(株)ルネサステクノロジ
コクヨS&T(株)	日本ガイシ(株)	ローム(株)
コニカミノルタ(株)	日本電気(株)	
(株)小松製作所	日本特殊陶業(株)	

※会社名は参加当時の社名を掲載 (2024年12月作成)

第15年度運営委員(順不同・敬称略)

(2025年1月現在)

本研究会を支える委員の皆様です。品質・信頼性・品質保証に関わるスペシャリスト集団であり、貴重な最新情報の発信、的確なアドバイス、ファシリテートを行います。

役割	研究分科会	委員名	会社名
委員長	第3	原島 瑞靖	富士フイルムビジネスイノベーション(株)
副委員長	第1 副主査	平本 抽	ソニー(株)
副委員長	第2 主査	三井 直人	三菱電機(株)
委員	第1 主査	小原田一真	(株)東レリサーチセンター
委員	第1	大西 久男	大阪ガス(株)
委員	第1	澤田 真一	ソニー(株)
特別顧問	第1	木村 忠正	電気通信大学名誉教授
委員	第2 副主査	柏木 謙一	日産自動車(株)
委員	第2	瀬戸屋 孝	(一財)日本電子部品信頼性センター
委員	第2	馬場正太郎	富士電機(株)
委員	第2	横川 慎二	電気通信大学
顧問	第2	山口 浩二	富士電機(株)
委員	第3	岩下 健児	SCオートモーティブエンジニアリング(株)
委員	第3 主査	勝田 信	日本信号(株)
委員	第3 副主査	長野 史裕	(株)リコー
委員	第4 主査	木村 功	TOTO(株)
委員	第4	向井 剛	三菱重工(株)
委員	第4 副主査	山森 英一	(株)東芝
委員	第4	山下 恭幸	ヤマハ発動機(株)

参加要領

◆活動期間◆ 2025年5月～2026年3月

◆開催日程◆
(年7回)

回数	開催日
第1回例会	2025年 5月30日(金)
第2回例会	2025年 6月27日(金)
第3回例会	2025年 7月25日(金)
第4回例会	2025年 9月 5日(金)

回数	開催日
第5回例会	2025年11月 7日(金)
第6回例会	2026年 1月30日(金)
第7回例会	2026年 3月 6日(金)

◆開催形態◆

参加者同士のネットワークづくりのため、オンライン開催回と集合開催回(オンライン参加可)の併用で開催します。オンライン会議ツールは「Microsoft Teams」を使用しますが、システムダウンなど通信トラブルが発生した場合、また、必要に応じてZoomを使用します。
集合開催会場：日本科学技術連盟・東高円寺ビル(東京都杉並区高円寺南1-2-1)

◆参加費◆

一般・会員とも 154,000円(税込) / 1名

■2024年度(14RQ)研究会からの継続企業 132,000円(税込) / 1名
組織の人材育成教育の継続と、個人のステップアップ、ブラッシュアップのために「継続参加」を強力にサポートしております。継続参加企業様特典をご利用ください。

本研究会メンバー特別特典

2025年7月17日～18日に開催する「信頼性・保水性・安全性シンポジウム」に特別参加費で参加できます！ 参加費 41,800円のところ→特別参加費 19,800円(税込/1名)

◆申込方法◆

研究会Webサイト「参加要領・申込」からお手続きください。申込締切:2025年5月20日(火)
同業他社やコンサルタント業の方のご参加はお断りする場合があります。

【開催通知・請求書について】

- ・開催の3週間前までに連絡担当者様宛「開催のご案内」をE-mailでお送りします。
- また、請求書は別送で電子請求書(PDFダウンロード形式)をお送りいたします。
- ・参加費は原則として請求書発行後2ヵ月以内に請求書に記載の指定口座へお振込みください。

免責事項：天災地変や伝染病の流行、研修会場・輸送等の機関のサービスの停止、公官庁の指示等、当財団が管理できない事由により、研修内容の一部変更および中止のために生じたお客様の損害については、当財団では責任を負いかねます。

研究会お申込に関するキャンセルの取り扱いとお願い

- ・お申込み後、やむを得ない事由により参加できなくなった場合には、できるだけ代理の方のご参加をお願いいたします(ただし、研究会活動期間途中の参加者変更は不可)。
- ・お客様のご都合で、参加をキャンセルされる場合には、セミナー受付にE-mailで事前にご連絡ください。その際、次のキャンセル料をご負担いただきます。

【キャンセル料】○営業日前とは、土日祝祭日、日科技連の休業日を除いた日数のことです。

- ・研究会第1回例会開催日の7～1 営業日前の 17:00 までのキャンセル:参加費の50%
- ・研究会第1回例会開催日の1 営業日前の 17:00 以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合:参加費の100%

◆内容についてのお問合せ◆

一般財団法人日本科学技術連盟 RQ研究会担当 TEL: 03-5378-9850 / E-Mail: re-group@juse.or.jp